

横浜市立 神奈川小学校 学校評価報告書 (平成28～30年度)

重点取組 分野	平成28年度		評価	重点取組 分野	平成29年度		評価	重点取組 分野	平成30年度		評価
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	一人年間2回の教科書の指導を重点的に行い、講師を招請し、授業力の向上を図る。指導書検討や指導書制作を学年でプロローグで実施すること。チームとしての協力体制が定着していく。個別に合った指導や算数少人数指導など、一人一人に応じた指導を行い、学習への関心を高める。	各学年の授業時数の確保を行うとともに、個に応じた指導と少人数指導により基礎・基本の定着を図るよう指導を徹底した。個別の指導をした一部の児童は、できるようになって満足した。今年度も算教科書の指導について重点的に研究し、問題解決の指導や板書のしかたなどについて授業力が向上した。	C	確かな学力	基礎的・基本的な学力の定着を体かするために、朝のモジュール学習を実施する。 特に音読の取組には、その児童の課題に沿って、取り出しによる学習支援を実施する。 思考力や表現力を身につけるために、課題解決学習に軸を置いた授業を行う。			確かな学力	c5		
豊かな心	全校遠足、運動会、運動会でのたてわり種目、学校祭など、たてわり活動を実施させる。 道徳の授業や日々の道徳教育を充実させ、いじめのない学校をめざす。 給食や朝の会で関わっている児童を褒める機会を多く、自己有用感を育てる。	たてわり活動を充実させて、他学年との交流が定着してきた。 個別支援級の児童などに対する偏見をもった児童の指導や児童間のトラブルが繰り返されなくなった。保護者は満足している。 道徳の授業を全校で公開している。授業の充実を目ざし取り組んでいくことが定着している。	C	豊かな心	道徳の授業研究に取り組み、一人ひとりが自分を見つめ、思いを伝え合える学びを充実させていく。 全校遠足や運動会などの行事を通じ、年間を通して縦割り班活動を実施していく。			豊かな心	c6		
健やかな体	体育の時間の充実を図るとともに、朝や休み時間、授業の前後、タグラグビーなどを行い、体力の向上を図る。 学校保健委員会と年間3回開催し、健康に対する意識の向上を図る。 家庭科の授業や給食の時間を通して食育の推進を行う。	朝やキッズタイムに、元気に遊ぶ児童が増えた。給食も残量が減り、よく食べるようになってきた。 学校保健委員会も年間3回開催し、保護者の参加を得て、充実してきた。 食育推進校の授業にも取り組んだ。さらに1年から6年までの6年間を見通した指導をする。	C	健やかな体	単元を系統立てて体育科の授業を計画し、体力の伸びを感じられるような授業を実施していく。 体育的行事やイベントを年間を通して計画的に実施する。 給食を「食育の時間」と考え、食を楽しみながら、健康的な生活ができるようにする。			健やかな体	c7		
児童指導	個に応じた指導を目ざすため、職員会議等をもとに児童指導を全職員で行う。 いじめの早期解決のため、随時いじめ対策委員会の開催をする。 管理職と児童支援専任教師、担当学年教師が連携し、保護者や児童に寄り添った指導を行う。	個に応じた指導のために、少人数指導やたてわり活動を行った。自己有用感をもてる児童が増えた。 いじめの早期発見と早期対応に努めてきた。特にいじめ対策委員会を創設し、管理職、専任、担任が協力して対応しているが、根が深くなかなか改善できない状況である。	C	いじめに関する項目	教職員全員がチームとなり、いじめの未然防止、早期発見、早期解決に努める。 児童間のトラブルなどがあった場合、事実関係や対応方法などを記録することで、児童の交友関係について長期的な視点をもた、学年をまたいできめ細かな対応を取れるようにする。				c8		
地域連携	「まちととも」学習「学校づくり懇話会」の充実を図るとともに、学校運営協議会の設置のための準備をし、教育委員会に申請を行う。 総合防災訓練など地域と連携をした行事を実施し、町内会やPTA会長との関係強化を図る。地域との連携を図る。	「まちととも」学習「学校づくり懇話会」の充実を図るとともに、学校運営協議会の設置のための準備をし、教育委員会に申請を行った。地域の町内会やPTA会長との関係強化を図ることができた。さらに、29年度からの地域・保護者に向けて開かれた学校の在り方を示していくこととなる。	C	特別支援教育	教職員全員がチームとなり、いじめの未然防止、早期発見、早期解決に努める。 児童間のトラブルなどがあった場合、事実関係や対応方法などを記録することで、児童の交友関係について長期的な視点をもた、学年をまたいできめ細かな対応を取れるようにする。				c9		
食育推進	給食の時間や学習指導等において食育を進め、学校保健委員会を共有する。 家庭科と学年主任がチームでティーチングを行い、家庭科の授業提案を行う。 給食コーナーの掲示物を工夫し、食育を推進する。	横浜市の食育推進校として、給食の時間や家庭科の時間を通じて研究を重ねてきた。 給食の喫食率も上がり、残量も少なくなってきた。 家庭科の6年生の授業を、栄養教諭と連携を図って行った。栄養教諭や家庭科専科教師の支援もあり、食育も充実してきた。	B	キャリア教育	社会科や総合的な学習の時間を始め、各教科で横断的に社会の一員としての自分について考えることができるようになる。 自己肯定感を高め、向上心をもって、自分の将来を描けるように、児童との日々の関わりを大切にしている。				c10		
幼保小連携	年間5回、近隣の保育園と交流をもち、学校生活を体験させるとともに、児童が保育園児と遊ぶ機会をもち、自分の成長や他者へのかかわり方について理解できるようにする。 近隣の園長校長や児童支援専任教師、養護教諭が交流を深め、互いの教育・保育への理解を深める。	近隣の保育園との交流を進め、一緒に遊ぶ機会や給食交流の場などを行った。 園長校長会を行い、情報交換をするなど互いの保育や教育に関心をもち関係改善に努めた。白百合保育園で、小学校校長の話を行った。 保育園・幼稚園要領を100%集めることができた。	B	学校運営協議会	地域、保護者、教職員が一体となり、ともに児童を育てるための主軸とするための組織づくりを目指す。 学校運営における実情を積極的に公開するとともに、委員からの意見を集約し、よりよい学校を目指す。				c11		
人材育成・組織運営	教師力の向上のため、学年やブロックでの事前授業を充実させる。 実技研修や研究発表を行い、教師力の向上を図る。 様々な授業公開や研究会に進んで参加させ、教師力の向上を図る。	「算数科を中心に授業力の向上を目ざして研修を重ねてきた。 これまで経験5年以下のメンターを集め、毎月1回の研修会を開催して研修してきた。さらに、教務やミドルリーダー、外部講師を依頼してさらに研修の計画と充実を図ってきた。	C	人材育成・組織運営	若手職員育成のためのメンターチームの編成及びニーズにあった研修を実施する。 学年研修及びブロック研修の時間をしっかりと確保し、教職員全員がチームとしてスキルアップできるようにする。			人材育成・組織運営	c12		
ブロック内相互評価の真付き	年間4回の校長・担当委員会を通して、中学校ブロックの共通目標を定めてきた。中学校小学校も年間1回ずつ、指導案を作成し授業提案を行ってきた。今年度は、小中学校の児童生徒支援について話し合った。今後、新学習指導要領がでると、各教科ごとに集まって小中の指導内容の関連を図ることが必要となっている。	9学年、中学校に集まって会議を行ったが、会場や担当校を輪番で回すことになり、29年度は横浜小学校、30年度は芝山小学校、31年度は神奈川小学校となった。		ブロック内相互評価の真付き				ブロック内相互評価の真付き			
学校評価評価	学校評価では、96%の児童が学校に誇りが感じている。教職員のかかわり方は98%が良好である。児童、保護者、教職員ともに100%の保護者が良好である。しかし、授業のわかりやすさは93%が良好、お知らせのわかりやすさは93%となっており、これらの改善が求められる。児童意識は、津波からの避難所への賛同、避難訓練の充実、不審者の対応についてなどがあった。登校には職員が必ず参加しているのも関わらず、「来ていない日など見えていないで書いてくる親もいる。引継ぎ情報を得られるように努力していく。			学校評価評価				学校評価評価			
学校経営中期取組目標の振り返り	今後、児童一人一人に応じた指導と評価を進め、確かな学力を身に付けさせていく。 学校全体で、いじめの早期発見と早期解決に向けて取り組むことが必要である。 人材育成の充実には、毎年の課題である。K新採用教師においては、教師の資質・能力に欠け、管理職や指導員等による指導がなかなかならず、改善が望めない。委員会からの指導主事にも御指導いただいたが、来年度も引き続き指導していく必要がある。 学校運営協議会の設置の申請を行い、地域・保護者とともに特色ある学校づくりを推進していきたい。		学校経営中期取組目標の振り返り				学校経営中期取組目標の振り返り				